

当麻寺伽藍

たいまでら

奈良県葛城市所在

ここは近鉄南大阪線の当麻寺駅/正面の山は二上山(にじょうさん)/当麻寺はその南麓の傾斜地に建てられている



当麻寺駅改札



当麻寺案内図



ここをまっすぐ行くと当麻寺/電柱の看板に中将餅とあるが当麻寺の中将姫伝説に由来する



中 将 姫

中将姫は、奈良時代の右大臣藤原豊成公の娘で、幼くして母を失い、継母に育てられました。しかし、継母から嫌われ、ひばり山に捨てられてしまいました。その後、父と再会し一度は都に戻りましたが、姫の願いにより當麻寺へ入り、称讃浄土経の一千巻の写経を達成し、十七歳で中将法如として仏門に入り曼荼羅(諸仏の悟りの境地を描いた絵図)を織ることを決意し、百駄の蓮茎を集めて蓮糸を繰り、これを井戸にひたすと糸は五色に染まりました。そしてその蓮糸を、一夜にして一丈五尺(約四メートル四方)もの蓮糸曼荼羅に織り上げました。姫が二十九歳の春、雲間から一条の光明とともに、阿弥陀如来を始めとする二十五菩薩が来迎され、姫は、西方極楽浄土へ向かわれたと伝えられています。「練供養」は、その伝承を再現したもので、毎年五月十四日に當麻寺において行われています。



中 将 姫

途中にこんなところがある



相撲開祖當麻蹶速の塚

日本書紀によると、「當麻の村に、大変勇ましく強い人がいてその名を當麻の蹶速という。その性格は大変な怪力で、動物の角を引き欠いたり曲がつている鉄の鉤を引き伸ばしたりします。そして、いつも人に語るのに、日本の国ひろしといえども、とつてい自分の力にかなう者はあるまい、なんとかして力の強い者にあつて、命がけで力くらべをしたいものだ、と語つていました。このことを天皇がお聞きになり、臣下に仰せられた。「もし誰かこの男にかなうような強い者がほかにはいないだろうか」と。すると一人の臣下が進み出ていうのに、「私は出雲の国に野見の宿禰と言う力の強い人がいると言うことを聞いています。それでこの人をよびよせて蹶速と力比べをさせてみてはどうか」と言つた。そこで、垂仁天皇の七年七月七日を期して、當麻の蹶速と野見の宿禰とに日本国技として初の天覧相撲を取らせることになつた。二人は互いに向かいあつて立ち上がり、おのおの足を高くあげて蹴り合い、力闘の末、當麻の蹶速は野見の宿禰にあばら骨を踏み折られ、またその腰を踏み折られてしまい、敗者となつてしまつた。當麻の蹶速は高慢な人のようですが、実際には都ずれしない素朴で野生的な性格のため、朝廷の人々と相いれなかつたと想像されます。そのため、当地の人々からはかえつて親しみをもたれた。石塔は田畑の中に鋤かれることなく、現在まで貴重な遺跡として残されているのです。

勝者必ずしも優ならず時には勝機と時運に恵まれず敗者となることもある。

勝者に拍手をおくるのはよい、だが敗者にもいつきへの涙をそそぐべきではないか

正面の五輪塔が当麻蹶速の供養塔



当麻蹶速の像



当麻蹶速の五輪塔





これはここに設けられた相撲館



参考 1 写真は群馬県藤岡市にある土師神社(どしじんじゃ)社殿で、土師神社の祭神は日本書紀に登場する野見の宿禰で、角力(相撲)が強かったため相撲の神様とされている



参考 2

前方は土師神社境内にある「土師の辻(相撲辻)」と呼ばれる相撲の土俵



さて、更に進むと当麻寺奥院の看板も立っている



正面に仁王門(東大門)が見えてくる

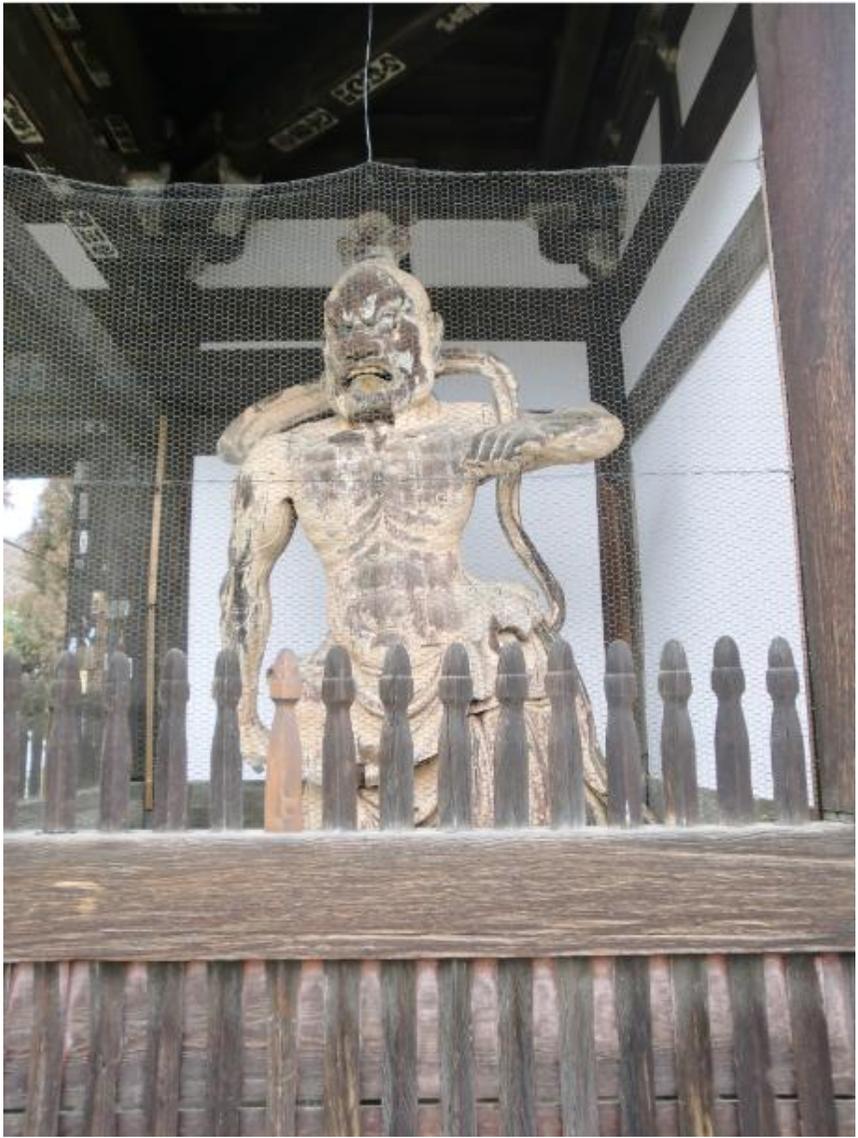


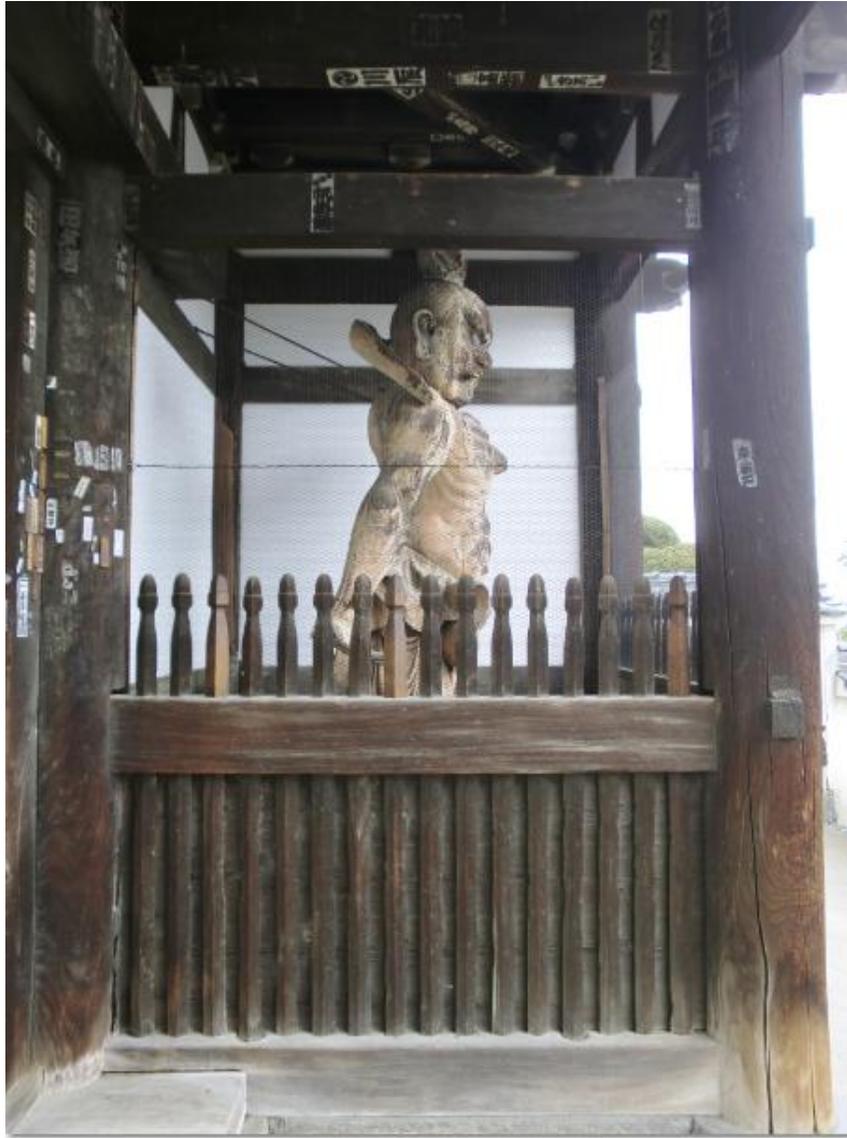
仁王門(東大門)











仁王門から境内を見る/正面に見えるのは梵鐘楼



振り返って歩いて来た方向を見る



境内側から見た仁王門





色々な説明板が立っている



當麻寺

當麻の名を知らせる名刹で、二上山のこんもりとした樹影を背景に静かなたたずまいを見せています。用明天皇の皇子麻呂子王が推古天皇二十年（六一二）に河内に建てた万宝蔵院に始まりその後天武天皇白鳳十一年（六八一）に麻呂子王の孫當麻国見が現在地に移してこの地方の豪族當麻氏の氏寺として整備したと伝えられています。金堂、講堂が南北に一直線に並び金堂の南方両側に東西二つの三重塔が建ちさらに本堂、薬師堂、仁王門などが独特の伽藍配置で建ちならんでいます。とくに古代に建立された東西両塔が完備している姿は全国でも當麻寺だけとして有名です。宗旨としては初め三論宗を奉じていましたが弘法大師が参籠してから真言宗にかわり鎌倉時代には浄土宗の霊場ともなり以後現在まで真言浄土の二宗を併立し八ヶ寺の塔頭（寺院）よりなる珍しいかたちになっています。

また金堂にある弥勒仏座像や日本最古の梵鐘をはじめ数多くの貴重な寺宝を今に伝えており国宝・重要文化財に指定されているものも少なくありません。

ポタンの名所としても有名で四月下旬より境内にはポタンの花が咲き誇り落ちついた雰囲気の色をそえています。

五月十四日には、中将姫ゆかりの「練供養」が行われ全国から集まった参詣者たちで境内は大変なにぎわいとなります。

平成元年3月吉日

葛城市観光協会



境内配置図



正面の入母屋屋根の建物は中之坊客殿/その後ろに西塔が見える



中之坊客殿は数寄屋建築に造詣のあった川上邦基と古代建築に精通した大岡實の設計になり「写仏道場」ともよばれている



昭和4年大岡實設計/登録有形文化財(建造物)となっている





中之坊入口



入口を入ると正面に知足庵(茶室)の建物がある



その右手を見ると柿葺き屋根の書院、西塔、そして一番右手が本堂となっている



本堂(中将姫剃髮堂)/桃山時代の再建





役の行者加持水の井戸



中将姫誓いの石





茶室塚



さまざまな石造物がある





熊野権現社





さて、南側に回って庭園を見てみよう



この中之坊庭園は大和三名庭の一つ「香藕園」/桃山時代に完成/史蹟と名勝の保存指定を受けている



書院の茶室双塔庵「丸窓席」/重要文化財





池の対岸から書院(重要文化財/桃山時代～江戸時代初期)を見る



知足庵(茶室)



さて、正面は庭園側から見た中之坊客殿(松室院)







南側から見たところ





南東側から見る



アップで見る



最近の屋根改修工事が終わり、綺麗になっている





換氣口







柱脚礎石



戸袋





昭和の初めの改築時に、中之坊で世話になった若い画家たちがお礼とお祝いを兼ねて板絵を格天井にはめ込むことが提案されたそうで、天井にはそれが見える









東側から見たところ



鬼と懸魚









北東側から見る



花頭窓



玄関の屋根が切り上がっている



玄関





北西側から見たところ





写佛道場
お静かに
拝観下さい

写佛道場

写佛道場
お静かに
拝観下さい

中之坊 客殿 松室院

当院の天井絵は
百四十余人もの近代作家
が梵源を起して
作品を奉納した
他に類をみない大変
貴重なものである。
画材も花鳥風月は
もちろん、多様に及び
百人百様の個性が
競いあう豪華さである。

こちら側からも天井を見してみる



さて、ここは靈宝院





室町時代中期の金銅製宝塔/その塔内には右手のような木造愛染明王像が納められている



さて、正面は本堂(曼荼羅堂)、左手は金堂、右手は講堂



東側から金堂(鎌倉時代前期の再建/重要文化財)を見たところ





北側から見る





西側から見る



斗拱は二手先/中備は間斗束







講堂方向を見る



仁王門方向を見る



これは講堂/鎌倉時代末期の再建/重要文化財



南側から見る





西側から見る



斗拱は平三斗/中備は間斗束







本堂方向を見る



仁王門方向を見る



さて、これが本堂(曼荼羅堂)/平安時代末期改築/国宝



北東側から見たところ



北側から見る





北西側から見たところ



北西側から見たところ





亀腹







斗拱は平三斗/中備は間斗束





西側を見る



北側を見る



金堂方向を見る



講堂方向を見る



背後にある関伽棚(あかだな)



本堂から仁王門方向を見る/左手が講堂、右手が金堂



さて、これは講堂から西塔方向を見たところ



アップで見る



ここから西塔へ近づく



柱間は初重、二重、三重とも三間



西塔/平安時代初期の建立と推定される/国宝



ケヤキ材が使われている



斗拱は三手先/中備は間斗束





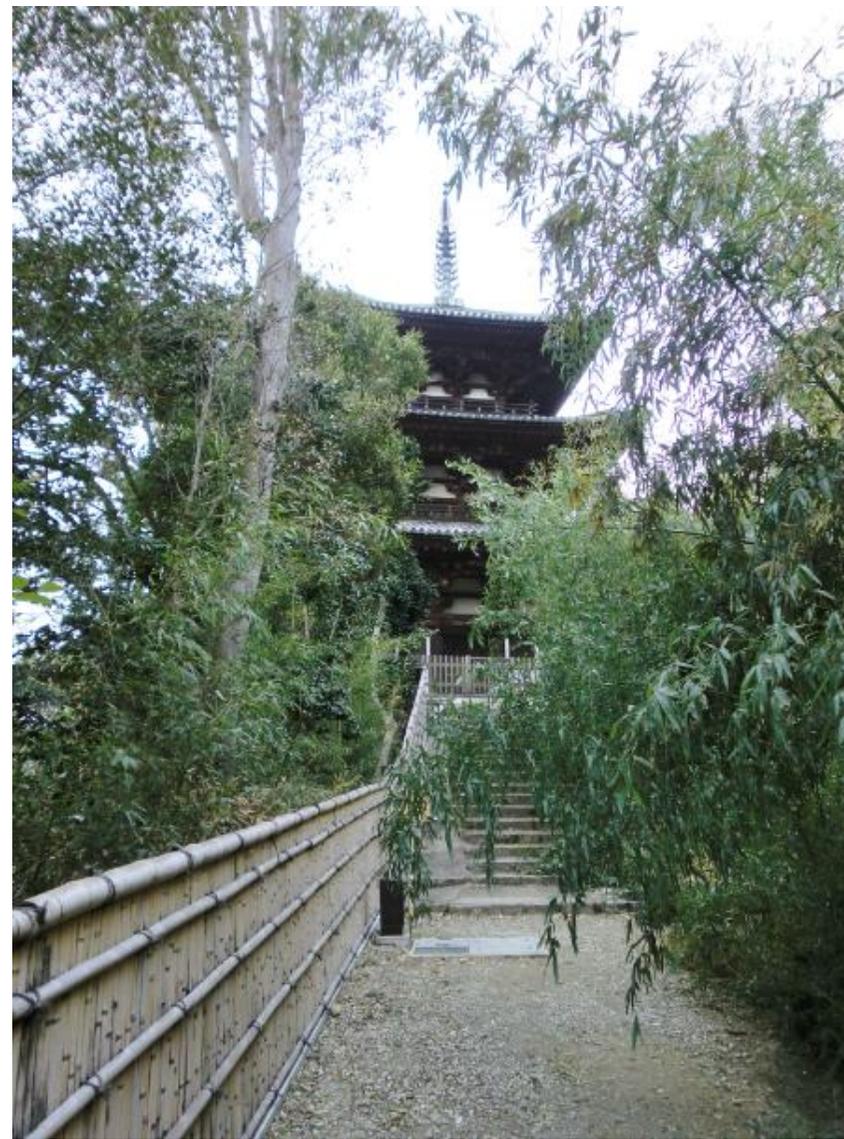
こちらは本堂から東塔方向を見たところ



アップで見る



ここから東塔へ近づく



東塔/奈良時代末期の建立と推定される/国宝



斗拱は三手先/中備はなし



ヒノキ材が使われている





柱間は初重は三間、二重・三重は二間









中之坊の庭園から見た東塔



同左



さて、この先に奥院がある



奥院配置図



平成の大修理中のようだ/右手は寺務所





黒門



正面は大師堂



大師堂/江戸時代/奈良県指定文化財



納骨堂



鐘樓



中之坊や西南院の歴代住職の供養塔が並ぶ





さて、これは日本最古の石灯笼/白鳳時代/重要文化財





手前の小さな燈籠の右手にある石は影向石/奥は金堂



こちらは鐘楼



日本最古の梵鐘/白鳳時代/国宝



ここは護念院





ここは西南院



當麻寺 西南院庭園案内図



本堂 本尊 十一面観音菩薩 (重要文化財)
 平手観音菩薩 ()
 聖観音菩薩 ()

入山時間 午前9時～午後5時迄
 別室本願の文化財拝見可

ここは千佛院





ここは宗胤院



ここは念佛院



これは薬師門



さて、ここは薬師堂/室町時代/重要文化財







参考ホームページ

<http://taimadera.org/purpose/2/index.html>

<http://www9.plala.or.jp/kinomuku/taimadera/taimadera.html>

<http://www.eonet.ne.jp/~katsuragi/>

http://www5a.biglobe.ne.jp/~kazu_san/hyaku_taima.htm

<http://www.kokuhoworld.com/083.html>

<http://www.eonet.ne.jp/~kotonara/taimadera.htm>

<http://www10.ocn.ne.jp/~mk123456/nara/taim.htm>

